

これからの八尾の芸術文化を考えるワークショップ 開催報告

「誰もが芸術文化につながるまち・八尾」について、
みんなで考えませんか？

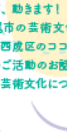
これからの八尾の 芸術文化を考える ワークショップ

**参加者
募集!**



基調講演
誰もが芸術文化に
つながる場所づくり
上田優奈代氏
NPO法人こえとこばこころの部屋
(コッポルーム) 代表理事

メルル申込は
QRコードから



日時 令和3年 **6月26日** (土)
14:00 ~ 16:45 (13:30 開場)

会場 みせるばやお
(近鉄八尾駅前 リノアス8F)

定員 **20名** (参加費無料・申込順・八尾市在住/在勤/在学)
※参加特典として「みせるばやお ビジター会員パス
(2022年3月まで有効)」をプレゼントします。

2022年8月、八尾市文化会館(プリズムホール)が新しい顔でリニューアルオープン。
誰もが芸術文化につながる。もっと芸術文化の魅力にふれて楽しめる。そんなまちづくりに向けて、八尾市、動きまわす！
八尾市の芸術文化の未来を新しく創ることをめざし、西成区のコッポルームの上田優奈代(かなよ)さんのご活動のお話を聞きながら、これからの八尾らしい芸術文化について一緒に考えてみませんか？

主催・
お問合せ先

八尾市 魅力創造部 文化・スポーツ振興課
電話 072-924-3909 FAX 072-924-3788
Eメール bunksports@city.yao.osaka.jp



八尾市 | やお
Yao City

ワークショップ・プログラム内容

趣意説明

「これからの八尾市の芸術文化振興について」

基調講演

「誰もが芸術文化につながる場所づくり」

上田假奈代氏／NPO法人ことばとこころの部屋（コ・ルーム）代表理事

ディスカッション

「誰もが芸術文化につながるためには」

参加者の皆さんとワークショップ形式で話し合います。

登壇者紹介



基調講演講師 上田假奈代 氏

新人・NPO 法人ことばとこころの部屋（コ・ルーム）代表理事
1969年宮城県生まれ。3歳より創作。17歳から朗読をはじめ。〈ことばは人生の味方〉と活動中。2003年大阪・新巻洋行で映画店のふりをした拠点アートNPO「コ・ルーム」を立ちあげ、2008年大阪・美・庵に移転。2012年、まちを大学にみわたした（美・庵美術大学）、2016年「グッドハウスとカレッジ・アート・フェスティバル」開設。2019年度に神戸市を拠点。〔本間〕にブックカフェを開く。大阪大学文学部都市研究プラザ研究員、大手前大学国際言語学部非常勤講師、堺アーツカウンシルPO。2014年度 文化庁芸術支援芸術家大学大新人賞。



アドバイザー 藤野一夫 氏

芸術文化観光専門職大 副学長・神戸大学名誉教授
（八尾市芸術文化振興審議会会長）

平成19年度より21年度まで、文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）「アート・ミュージアム・ジェンダー」で近郊都市文化再生」事業期間委員長。ベルリン自由大学博物館高等研究所フェロー。専攻はドイツ文学・歴史学、音楽文化論、文化政策学、アートマネジメント。



コーディネーター 中脇健児 氏

場とコトLAB 代表・NPO 法人ことばとこころの部屋
大阪芸術大学 芸術計画学系 准教授・天理医療大学 非常勤講師
「その場にいる人とその場だからできること」をモットーに、アート、コミュニティOP、結婚支援施設、教育、福祉などで活動中。ファシリテーションやワークショップを道し。参加者主体のプロジェクトを支援する。英名で「タウナム・ジョー」【地域×クリエイティブ×仕事～後継島院・ロールモデルデザイン～】（ともに担当施設）。

開催概要

日時 令和3年6月26日（土） 14:00～16:45（13:30開場）

会場 みさるばや（近鉄八尾駅前 リノアス8F）

定員 20名（参加費無料・申込順・八尾市在住/在勤/在学）

※参加特典として「みさるばやお ビジター会員（2023年3月まで有効）」をプレゼントします。

会場アクセス



〒581-0803 大阪府八尾市光町2-60 LINQAS（リノアス） 8F
TEL. 072-920-7128
【電車】近鉄大阪線／近鉄八尾駅 徒歩4分（300m）
【お車】近畿自動車道近古市・大阪線 八尾 IC 車で4分（2.3km）
【路線バス】近鉄バス 八尾線 近鉄八尾駅前 徒歩4分（310m）

申込方法

電話・メールのいずれでも受け付けます。

- ① 電話の場合…八尾市 文化・スポーツ振興課（072-924-3909）へお電話いただき、お名前・年齢・ご所属・電話番号をお伝えください。
- ② メールの場合…件名に「これからの八尾市の芸術文化を育むワークショップ参加申込」、本文にお名前・年齢・ご所属・電話番号をご記入の上、八尾市 文化・スポーツ振興課（bunkasports@city.yao.osaka.jp）へメールを送信してください。

メール申込はQRコードから



主催・お問合せ先

八尾市 魅力創造部 文化・スポーツ振興課
電話 072-924-3909 FAX 072-924-3788
Eメール bunkasports@city.yao.osaka.jp

これからの八尾市の芸術文化振興について

／八尾市 魅力創造部 文化・スポーツ振興課長 川添 浩司

- 八尾市の芸術文化を取り巻く状況として、「鑑賞に比べて芸術文化活動への関心が低い」「30～40代が芸術文化に触れる機会が少ない」「子どもたちの生きる力や前向きな豊かな力を身に付けさせたい」「芸術文化活動は個々では盛んだが、活動間のつながりが薄い」といった問題が挙げられている。
- 誰もが芸術文化につながることで、「人を元気に」「まちを元気に」「やさしい人とまちに」していくため、市民・企業・学校・行政が一体となり、芸術文化に関する「条例」制定に取り組む。
- 芸術文化の有機的なネットワークをつくることで、それぞれの居場所・活動場所・活動団体の間で芸術文化につながり、芸術文化を広げていく。



基調講演「誰もが芸術文化につながる場所づくり」 (1)

／NPO法人 こえとことばとこころの部屋 (ココルーム) 代表理事 上田 假奈代 氏

- 「社会とつながって自分の言葉で語れる、生き生きと生きていける社会」に取り組む“詩人”として生きていくため、「カフェのふり」をすることから開始。2003年にCafé、2008年にココルームを開設。「みんなでご飯を食べる」ことで悩み事を語り合ってきた。
- ココルームへ毎日来るおじいちゃんがいたが、ワークショップには参加しなかった。1年後に手紙を書くワークショップへ参加し、「字ってどう書くの？」と質問されたことで、「誰もが表現できる場をつくる大切さ」に改めて気がついた。
- 2011年に釜ヶ崎芸術大学を開催。利用者だけでなく外部や海外の方、大学等も参加できるように入り口をたくさんつくること、関係性を固定しないこと、一緒にやる空気感を演出することに取り組んできた。



基調講演「誰もが芸術文化につながる場所づくり」(2)

／NPO法人 こえとことばとこころの部屋（ココルーム）代表理事 上田 假奈代 氏

- ココルームでは、「何かをやりたくなる空間づくり」に注力してきた。来た人の気持ちや想いを自然に出せる場所として、“かしこまらなくていい”“一緒にやろうと触発される”“弱音を吐いてもいい”といったことを重視。特に「問題解決」ではなく「面白いところに注目」してきた。
- 支援の現場で重視される「マズローの法則」ではなく、「ジグソーモデル」を重視。ひとつの欲求が満たされると次の欲求へ進むはしこのモデルではなく、全ての欲求が同時に満たされることが重要だというもの。
- 釜ヶ崎は面白さや好奇心など、「芸術の源泉」。暴力等にはきちんと対処しつつ、スタッフと正直なコミュニケーションをすること、関係者とグラデーションのお付き合いをすること（コアで関わる人、ちょっと関わる人、年に1回関わる人等）を大切にしながら続けてきた。



これからの八尾の芸術文化を考えるワークショップ

グループディスカッション（テーマ：産業・観光）

- 八尾には面白い人が多い。こうした人をどうつなぎ、どう活かしていくかが大切。
- まずは八尾の人に八尾の魅力を知ってもらうことが大切。そのためには、企業や学生にも関わってもらうため、それぞれがつなぐプラットフォームや場所が必要（近鉄八尾駅近くにできる予定）。

（上田假奈代氏

コメント）

- 観光の議論にも関わらず、まずは八尾の人に魅力を知ってもらうことが大切と言っているのが面白い。
- 八尾は歴史資源等が「中途半端」という意見がある。このため、物見遊山ではなく、面白い人に会いに行くことが大切なのではないか。



グループディスカッション（テーマ：居場所）



- 特定の場所ではなく、八尾自体が居場所になるのではないかと。会いたい人がいることが大切。
- 芸術文化という構えてしまうが、まずは絵を描いてもらう等、お互いが対等で評価しない関係づくりから始める。
- 八尾自体が、まず自分のことを知ってもらう、認めてもらう場所になると良い。

- (上田假奈代氏コメント)
- 居場所はサードプレイスと言われるが、滞留しようと固定化されてしまう。この関係性を動かすためのキーワードとして、八尾全体が「居場所」だと言っている。
 - 居場所支援には行政も関わることが求められるが、まずは居場所運営に関わっている人が言語化し、外部発信することを心掛けてはどうか。

グループディスカッション（テーマ：プリズムホール）

- プリズムホールは年齢層の高い人には馴染みがあるが、若い人はそもそも知らない状態。このため、若い人に開けていくことが大切。
- プリズムホールに行ったらあの美味しい食べ物があるでも良いし、河内木綿のすごい作品がある、買うことができるというのも良い。また、プリズムホールで歌える場所が会っても良い（オーディションをして、FMちゃおで放送するなど）。
- プリズムホールのようにジグソーモデルとすれば良い。我々はプリズムホールに愛着がある。若い人もプリズムホールに愛着を持ってもらうための仕掛けが必要だ。

（上田假奈代氏コメント）

- ▶ 劇場法が出来てから、劇場は地域の拠点となることが求められている。プリズムホールもそのような役割が期待される。
- ▶ プリズムホールが愛着のあるホールだということは分かったが、若い人や他所から来た人など、愛着のない人が愛着を持つ仕組みが必要だ。交通手段を考えたり、若い人の声を聞くならその場をどう作るかなど、考えてはどうか。



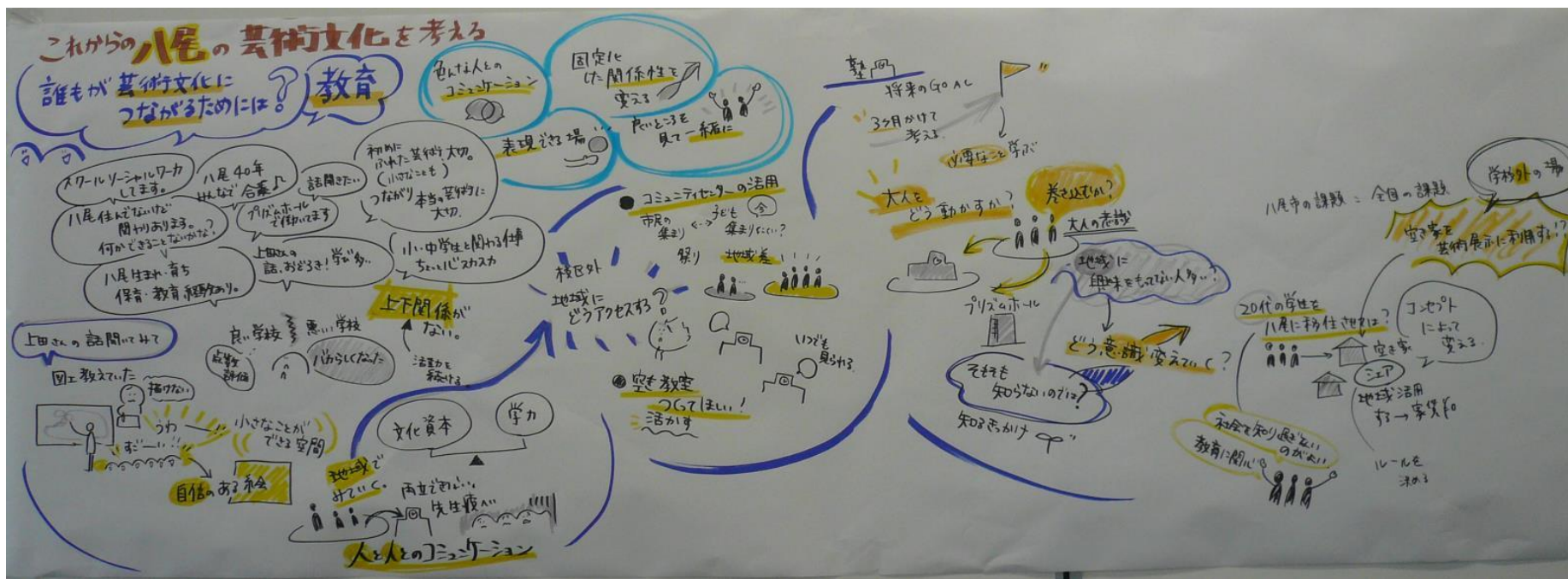
※資料中「若い人はそもそも知らない」とあるが、H29年度、H30年度のプリズムホールの大・小ホール及び展示室での催事のうち、約4分の3強は、30歳代以下向けとなっている。

グループディスカッション（テーマ：教育）

- 子どもたちが図工の時間に絵を描くと自信がついたりする。「文化資本」という考え方があり、文化的な活動や社会的な活動を幼少期からしていると、目に見えない文化資本が蓄積され、心も豊かになり、学力にも好影響がある。
- 学校だけでなく、地域でも展開していくことが重要だ。学校では学力と文化資本を両立することが大切だが、学校の先生は多忙であり、ここに地域の人に関わっていくことが大切だ。子どもがどのような教育を受けるかではなく、まずは大人が教育をどう捉えるかが重要であり、そのような大人をどう発掘していくか。そもそも地域や文化を大人が知ったり考えるきっかけをつくることが大切だ。
- 八尾ではこれから空き家問題が深刻になる。このため、教育や文化、地域おこしに関心のある学生に安く賃貸し、大人を巻き込んでいってはどうか。

(上田假奈代氏コメント)

- 教育は子どもではなく大人が変わっていくことが肝だ。タイのスラムへ行った時、絵を描くワークショップがあった。線を引くというのは自分の考えを出すということ。表現するというのは、この線一本を選ぶという練習だ。
- 自由に表現してと言っても、なかなか難しい。このため、表現するきっかけが必要であり、例えば「居場所」が重要になりそうだ。



これからの八尾の芸術文化を考えるワークショップ